

農林省農技研

日浅治枝子

1. 農村婦人作業衣は、農村婦人が農業労働を支障なく行なうための衣服で、したがって日常着用する衣服と異なる形態、構造をもつものである。第1報においては、水田作、畑作別に農村婦人作業衣の現在に至るまでの変遷、ならびに変遷の要因について報告した。

今回は、これら農作業衣の形態上にみられる顕著な地域差、ならびにその要因について報告する。

2. 昭和27年以降、現在に至る間、北海道をのぞく全国各地域約100か所において、農村婦人作業衣の形態および構造、材質、縫製、変遷過程、地域差など種々の調査を行なった。

3. 現在、全国各地で着用する農村婦人作業衣の形態的な相違を、軀幹部に着用する作業衣についてみると、畑作業衣の場合、各地域を通じ、上半衣は和・洋式上着、下半衣はモンペを基本とするズボン式の作業衣が最も多い。一方、水田作業衣の場合、関東より以西にかけては畑作業衣と同様の形態であるが、関東および北陸の一部には、上半衣が在来の野良じゅばん、下半衣が股引という形態が多く、東北では上半衣が野良じゅばん、下半衣が在来のモンペ、または、股引という形態であり、水田作業衣の場合、明確な地域差が認められる。このような地域差をもたらす一般的な要因として、第1に土地、気象などの自然的条件、第2に風俗、慣習などの社会的条件、第3に生産力の発展などの経済的条件の相違によることが大きいと考えられる。